

同、癩、痕、キ、ス、ト、コ、ロ、癩、瘻、瘻、已、上、同

〔下學集支體〕金瘡

〔覆載萬安方〕第二十四卷 金瘡門 疵也并竹木車馬落傷折等

一金瘡、血不止、 二金刃傷中筋骨、 三金瘡、煩悶及發渴、 四金瘡、中風水、及癩、身不動也

名破傷風、又云破傷中風也、 五金瘡腸出、 六毒箭所傷、 同此瘵也、 七箭

鏃、金刃入肉、 八竹木刺傷肌肉不出、 九治金瘡大散方可用方腸出、 十傷折墜落高處

車馬、 十一湯火瘡并灸瘡不差方

〔醫心方十八〕治金創方第五

病源論云、夫被金刃所傷、其創多變動、若按創邊、于急肌肉不生、青黃汁出、創邊寒、清肉消、臭敗、前出赤血、後出黑血、如熱爛者、及血出不止、白汗隨出、如是者多凶、若中絡脈、髀、內陰股、天窻、負角、橫斷、腓腸、乳上、乳下、及與鳩尾攢毛、少腹、尿從、創出、氣如賁、脹及臄出、諸創如是者多凶、少愈、

〔安齋隨筆二〕金瘡藥方

金瘡名人近江國大膳亮家傳

人參 二匁 カラシ ナ 去 川骨 五匁 皮ヲ 削去 酒 熟地黃 三匁 川芎 二匁 白芍藥 二匁 酒ニテ

牡丹皮 二匁 外ノ 肉桂 三匁 酒ニツケ 頭 甘草 五匁 上 皮

右刻ミ合香色ニ燒リ、一包七分宛、如常煎ジ、手負ニ用ユ、メマヒヲ直シ、ソリケ不來、

〔病家須知六〕金瘡打撲の心得を説略○中

また金瘡を洗に、むかしより火酒を用ることなれども、洗とときに、劇痛堪がたきのみならず、暑月は膿やすくして、大に可からず、それよりも、石灰を水に攪て、その澄清を以て洗かたが、血の止ことも速にして、痛も少く、且愈ことも早し、それは新汲水二三升に、石灰を兩手にて二掬許も投攪